

自分にあった作風は?(自画像の制作)

NO.62 実践事例 発行:伊那市教育委員会学校教育課 編集:ICT活用教育推進センター

下書きをバランスよく描くにはどうしたらいいだろう?

中学校3年美術

この題材では、有名な作品の構図や描き方を真似しながら自画像を制作します。生徒はこれまでに色々な 画家の描いた自画像を鑑賞し、気に入った作品について調べました。これが、その作品を選んだ視点から 「主題」を練っていく大きな足掛かりとなります。画風を「真似」しなくてはならないため、鑑賞の場面で は作品の造形的な特徴への注目を促し、生徒が自分の表現したい「主題」を見つける手がかりとなりまし た。また制作の場面では構図や色彩なども実際にあった作品を参考にできるので難易度が軽減されました。 (以下は第4時の授業の様子)



①自分の参考にする作風について考え た生徒たちは作品の大まかな下書きの 制作に取り組みます。



②下書きを始めるにあたり、前時に撮影 した画像のようにバランスよく下書きを 描くにはどのようにしたら良いかを考え ます。



③グリッド線を入れて撮影した自分の画像 にマークアップ機能を利用して、赤の補助 線(パーツの線)を書き込みます。



④お互いの引いた補助線を見合い、ア ドバイスをしあいます。友だちのアドバ イスによって頭の大きさを修正したり、 あごの部分をなめらかに引き直したりし ていました。



⑤補助線を参考に、下書きを始めます。グ リッド線と画用紙に引かれた補助線を参考 にして大体の場所を捉えることができまし た。赤の補助線(パーツの線)をみて大雑 把な形を描くことができました。



⑥本時の自分の活動の様子を、ワークシー トへ記録します。「次は、カクカクしたと ころを曲線にする作業をして、よりリアル にしたい。」といった振り返りができまし た。

伝統的

学びを深めるICT活用

高遠中学校 美術科 小林健太郎 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、 iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

※出典: https://www.artmaieur.com/ia/magazine/5-mei-shu-shi/poppuatono-wei-xiaomi-andi-u-ohoru-iemuzu-rozenkuisuto-vue-miniun/332611 先進的

学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の 学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び 創造性を育む学びの実現

「自分がいちばん真似したい作品を決める」 第1・2時

本単元9時間扱い中の第1時では、9 枚の有名な画家の描いた自画像と出会 い、それぞれの作品の印象に合うセリフ をグループごとに考えました。(スクー ルタクトの「グループ課題」の機能を活 用)

第2時ではそれぞれの作風と自分の思 いを結びつけて1枚の自画像を選びまし た。5つの視点(表情・ポーズ・色使い・ タッチ(筆使い)・画面構成)をもと に、効果やイメージを考えて、自分に あった表現を見つけます。



スクールタクトの「グループ課題」機能を活用する

第1時で「自画像を描くこと」について扱った文章を読み、今「自画像を描くこと」が自分の将来に 向けてどんな意味があるかという視点から、自画像を描く意義について考えました。この時、グループ で話し合ってワークシートへまとめていきました。(スクールタクトの「グループ課題」機能)



必要なグループの数だけ [グループの追加]をク リックします。それぞれ のグループに「グループ 未設定」の児童生徒を移 動させていきます。

・グループ課題として課題を配布している場合、配布後にもグループ編集が可能です。 課題の配布などの詳細については右の二次元バーコードから情報を入手してください。